



NPOインターンシップ
ツナがるカンケイ

2019

ツナガルカンケイ



 P1-2 プログラム内容

 P3-4 受け入れ団体一覧

 P5-6 インターン生の活動風景

 P7-8 インターン生座談会

 P9 受け入れNPO・大学からの声

 P10 インターン生のアンケートより



プログラム内容

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです。



実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。



Step 2 事前研修会

Step 1

NPOと学生のお見合い会

参加学生と受け入れ団体が直接話すことができる機会です。様々な団体を見て、活動したい団体を選びます。



Step 3

志望先の調整&面接

志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。



Q&A

アルバイトなどで活動に行けない日があります。

活動内容・活動日は受け入れ団体と相談して決めてもらっています。「連続で活動しなければならない」「1日6時間活動しなければならない」などのルールは定めていないので、いつ活動に参加するのか、受け入れ団体と一緒に決めてください♪

途中で参加できなくなってしまった場合はどうすればいいの？

定められた時間の活動を行う約束のプログラムなので、途中で参加をやめることは原則認められていませんが、やむを得ない事情で参加が出来なくなってしまった場合は、すぐに自身の受け入れ団体への相談、大学・事務局への報告を行ってください。その場合は一緒にどうするか考えていきましょう。

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流も開催。

Step 4 活動体験



Step 5

修了式・成果報告会

活動してきた事を振り返り、活動内容を共有します。最後に修了書を受け取り、プログラムは終了です。

2020年度の活動

長期実践型

期間：週1~2回(200~400時間)
時期：8-2月

短期体験型

期間：10日前後(80時間)
時期：8-9月

参加者数 計59名

困ったことがあればどうすればいいですか？

一人で抱え込まず、周りの人に相談してみましょう！

活動をする上での相談なら自身の受け入れ団体や他のインターン生、プログラム自体に関する相談なら事務局や大学など、相談内容によってどこに相談するのが一番か判断して、声をかけてください。解決できるようサポートします！

このインターンシップで何が得られますか？

一律に「この能力が身に付きます」というようなプログラムではありませんが、このインターンシップでは、事前の研修会で、自分自身の目的・目標を定めてから活動を行います。活動の途中で改めて目的・目標を確認する機会、成果報告会で最終的な自分の成長を発信する機会もあるので、自分で自分を高めていくことができるようなプログラム内容になっています！



受け入れ団体一覧



片倉うさぎ山公園
遊び場管理運営委員会
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



NPO法人教育支援協会南関東
子どもの体験学習支援



K2インターナショナル
グループ
まちづくり・若者支援



障害者自立支援生活センター
IL・NEXT
障害者自立支援



NPO法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援



NPO法人地域生活センター
障害者福祉



NPO法人
ピッピ・親子サポートネット
学齢期児童の居場所



公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全(教育・調査・管理)



NPO法人アクト川崎
環境学習、地球温暖化防止、
市民活動支援



NPO法人森ノオト
環境・メディア



NPO法人ぐらす・かわさき
地域活動支援センター
「メサ・グランデ」
コミュニティカフェ・市民活動支援



コトラボ合同会社
「ヨコハマホステルヴィレッジ」
コミュニティ再生、起業



大倉山おへそ
まちづくり・コミュニティスペース



認定NPO法人
びーのびーの
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



NPO法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人かながわ外国人
すまいサポートセンター
外国人支援(すまい探し・生活相談など)



NPO法人WE21ジャパン
リサイクル、国際協力



NPO法人
地球市民ACTかながわ
国際協力



NPO法人横浜NGOネットワーク
国際協力



NPO法人STスポット横浜
芸術文化



NPO法人横浜市民アクト
(ほどがや市民活動センター
アワーズ)
市民活動支援、まちづくり



NPO法人
横浜ジェントルタウン倶楽部
まちづくり、障害者福祉



NPO法人アークシップ
まちづくり、アート



インターン生の活動風景

長期インターン生の活動



全体ミーティングに参加。イベントの全体像を把握します。



イベント出演者のライブなどに訪問。SNSを通して魅力を発信します。



イベント当日は仲間の温かさ、人々の繋がり
の素晴らしさを体感しました！

7月

8月

9月

10月

10月20日



メンバーと計画を立てながら、本格的に広報活動がスタート。外部イベントにもスタッフとして参加。



チラシを会場周辺の施設やお店に配架します。イベントが間近になり、SNSの活用も活発に！

短期インターン生の活動



【WEショップの訪問】

団体が経営している、フェアトレード商品や寄付された衣服や雑貨を扱うお店です。実際に店員さんやお客さんとお話しでき、地域との密着性を感じることができました。



【TICAD公式サブイベントの設営】
8月にみなとみらいで行われたイベントで、WEの活動をたくさんの方に認知してもらうための講演をしました。設営の手伝いをしたり、講演を聴かせていただきました。

2日目

4日目

6日目



【WE21ジャパンエコものセンターの訪問】

綾瀬市にある大きな倉庫です。皆さんが寄付して下さったものを預かり、神奈川県内のWEショップに配送する役割を果たしています。実際に荷物の整頓を手伝い、大変さを実感しました。

1日の流れ

10:00

到着

書類の確認作業や、データ入力など、簡単なお手伝い

12:00

休憩

職員の方と一緒に昼食。大学のことや普段の活動についてのお話をする機会があり、楽しかったです。

13:00

作業再開

外での活動は、ボランティアの方や他大学の方、企業や団体の方と会議やお話しする機会が多く、とても充実していました。

16:00

作業終了

アークシップ 長期インターン生



青山学院大学
3年
堤 杏奈さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

実際に活動するプロジェクトに深く関われるポジションで、主体的にインターンの活動をしたいと思っていたため、一人当たりの裁量が多そうなNPOのインターンに挑戦しました。

Q2. この団体を選んだ理由は？

どんな団体が詳しく分からないまま、広報をやってみようという想いだけで飛び込みました。また、個人的な作業だけでなく、長期的なチームでの活動を経験したかったので長期での募集が決め手となりました。

Q3. 活動で手ごたえを感じたことは？

広報の一環として、複数の福祉団体や施設に取材に行った際、そこで学んだ障がい者に対する知識を活かして、イベント全体での取り組みに反映できたこと。来年以降の同イベントにも大きな影響を及ぼすことができると嬉しかったです。

Q4. NPOへの印象の変化は？

始める前は、「やりがいはあるけど、暗い現実と向き合わなければいけない活動」という漠然としたイメージでしたが、実際は「やりがいがあって楽しくて前向きに頑張れる場所」でした。NPOといっても様々な特色をもつ団体があることを知りました。

Q5. 団体の方へメッセージ

尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。未熟な学生に対しても、本気で指導してくださったことに感動しました。いつか自分の成長した姿を見せて恩返ししたいと思っています。本当にお世話になりました。

Q6. 応援して下さる大人へメッセージ

「働くって何?」「やりたいことがない」など、学生なら一度は直面する問題です。企業にはない価値観を提供してくれるNPOのインターンシップは、悩める学生にとっても貴重な経験だと実感しました。後輩達にバトンを繋げるためにも、ご支援のほどよろしく願います!

WE21ジャパン 短期インターン生



横浜国立大学
2年
金田 龍治さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

NPOでは、多くの活動を行っているということを知前から知っていましたが、具体的な活動をよく知らなかったため、自分から活動を試みることでより深い知識と経験を得られ、広報することができるのではないかと思います。また、参加しようと思いました。また、インターンシップということもあり、まだ出会っていない人とも話せる機会だと思い、このプログラムを選びました。

Q2. この団体を選んだ理由は？

環境と貧困、人種といった課題に対して力を入れた活動を実践的にに行えることに魅力を感じました。また、多様な文化も身近に感じてみたいと普段から考えており、参加してみたいと思いました。

Q3. 活動で手ごたえを感じたことは？

普段、自分が大学で行っている委員会活動で得た経験を、話し合いの場で活かしたことで、また、活動を制作する上で、まだ知らなかったことを職員の方から教えて頂いたことです。

Q4. NPOへの印象の変化は？

このインターンに参加する以前とは違い、今ではNPOの活動を具体的にイメージすることができ、他の活動にも積極的に取り組むことができるようになりました。自分の強みを知り、弱点を強みに変えることで、自分の持つポテンシャルを大きく引き出せることがこの活動を通じて学べたことです。

Q5. 団体の方へメッセージ

短い間でしたが、貴重な経験をさせていただいたこと、本当にありがとうございました。これからも経験を活かし、自分のやりたいことを積極的にしていこうと思います。

Q6. 応援して下さる大人へメッセージ

NPO団体さんは、大学生のような若い世代が活躍していくことで、より多くの世代にNPOの活動を普及させることができるので、ぜひ参加して頂きたいと仰っていました。私たちも積極的にアクションを起こしていくので、これからも応援をよろしくお願い致します。



インターン生座談会



◆学生座談会

2020年3月、NPOインターンシッププログラムに参加した学生を交え、座談会を行いました。今回は、大倉山おへそで短期インターンをした大関さん（横浜市立大学2年）と、アークシップで長期インターンをした加藤さん（関東学院大学3年）に参加していただきました。

司会：本日はお忙しい中ありがとうございます！それでは早速ですが、NPOインターンシップに参加したきっかけを教えてください。

加藤：きっかけは大学の「NPOマネジメント」という授業で講師から紹介され、興味を持ったことでした。チラシを見て、一般参加として説明会やお見合い会に参加し、アークシップと出会い、参加することを決めました。

大関：私は、学校の「地域まちづくり実習」という授業の一環でNPOインターンシップを選び、参加しました。学校を通しての参加となります。

司会：ありがとうございます。参加の方法は違うけど、きっかけはお二人とも学校の授業だったんですね！それでは続いて、NPOインターンシップを通して得たものを教えてください。何かの気づきだったり、スキルだったり…。

大関：考え方が変わりました。私は学校でまちづくりを学んでいるので、まちづくりを活動分野とする大倉山おへそをインターン先として選びました。まちづくりというと、都市計画や建築についての専門知識を持っている人がするものだと思っていたのですが、実際には、たとえ専門知識がなくても、「そのまちが好き」という人たちがまちづくりに携わっていました。人々の想いがひとつの“まち”を作りあげていくことの大切さを知ることができました。

司会：確かに。今後自分も何かの地域活動に関わる時に、「特別な知識やスキルがなくても、私でもできることがあるかも」って思えますよね。

加藤：僕は「つながり」ですね。このインターンには、大人と接する貴重な機会がたくさんありました。特に、NPOで活動されている方はボランティアの方も多く、本業以外の部分でも全力で活動に取り組む大人の姿がすごくかっこよくて。そんな生き方に感銘を受けました。また、活動の中で福祉施設や様々なイベントに自分たちでアポを取ってインタビューをさせていただいたのですが、そこで出会った人たちの話を聞いたことも、僕にとってはとても新鮮でした。この経験が、現在就職活動をする中でも、自分の中に一つの軸を作り上げてくれました。

司会：普通に過ごしていたら、家族や学校の先生、バイト先の人以外の大人と接する機会ってなかなかないですよね。NPOや地域には、対等に接してくれる大人がたくさんいるという事を、私も実感しています。



司会：では、インターンを通して、何か将来についての考え方ややりたいことの変化はありましたか？

加藤：インターンに参加する前は、再来年には社会人になると考えたときに、将来に対しての漠然とした不安がありました。実は「インターン」というものに就職活動のイメージがあったことも、参加のきっかけのひとつでした。実際にはこのインターンシップが直接的に就職活動や採用に結び付いたわけではないですが、先程も話したように、自分の目指す姿や就活をする上での軸を得られたことで、その不安が薄れていきました。

司会：インターンを終えた今でもアークシップでの活動を続けているんですね？

加藤：はい、週1でアルバイトとして活動しています。もちろん雑務などもありますが、**「自分で考えて自分で動く」ことの重要さを改めて実感しています。**僕は主にSNSの運用を任せてもらっていて、どうしたら「いいね」を目標の数に近付けられるかなど、自分で考えるのは大変だけど、とても楽しいです。

司会：まさに、その経験こそが絶対に就活に役立つと思います！頑張れ！応援してます！（笑）大関さんはどうですか？

大関：そもそも私がまちづくりを学びたいと思ったのは、地元の商店街を活性化させたいと思ったからです。そして、商店街でのまちづくり、特に女性が多く活躍されているという点で、おへそを選びました。このインターンを通して、思い描いていた将来のシミュレーション・疑似体験ができたと感じています。



司会：おへそで活動する人たちが、未来の自分と重なったんですね。

大関：はい。そして、加藤さんも言っていたように、**「このインターンでは、自分で考え、意見を発信することを求められます。」**この経験を通して、将来の目標について、より具体的に考えられるようになりました。

司会：最後に、これからNPOインターンシップに参加する後輩へ、メッセージをお願いします！

加藤：きっかけは何でもいいと思います、面白そうだなとか、将来のためとか。だけど、**「いざやると決めたら「ちゃんとやる」ことが大切です。」**活動に対する不安もあると思いますが、真剣に取り組んでいけば、温かく受け入れてくれます。この貴重な機会・経験をぜひ大切に頑張ってください！

大関：NPOインターンシップは、活動の日時や内容などに柔軟に対応してもらえたり、何より大人たちが対等に接してくれて、**「いい意味で「インターン」のイメージを変えてくれました。」**身構えず、安心して活動してください！

司会：お二人とも、ありがとうございました！

NPOインターンシップの魅力を一言で表すと…



「みんなの居場所」

大倉山おへそ 短期インターン生
横浜市立大学2年 大関 羅捺さん

ある空間の中に、いろんな個性を持つ人々が集まっている、という感覚で活動をしていました。共通点は「まちへの愛情」。誰もが集まれる居場所、おへそにはそんな魅力があります。

2か月のインターンでしたが、いつまでも変わらずに受け入れてくれる居場所ができました。



「人との出会い」

アークシップ 長期インターン生
関東学院大学3年 加藤 拓海さん

今までの生活では出会うことのできなかった人に出会えることの価値、そんな人たちに出会うために自分で行動を起こすことの価値を痛感しました。そしてそのつながりが、ホッチポッチミュージックフェスティバル、ひいては音楽を通して生まれていることに感動しました。



受け入れNPO・大学からの声



NPO法人アーキシップ
長谷川 篤司 様

NPOインターンシップの最大の魅力は「事業を通じて大人と同じ位置で真剣に考え、取り組み、話すこと」にあります。

多くの学生に不足していることは「大人と話す機会」です。「親や先生やバイト先」とは違う形で大人と話すことは実はとても大事なことです。

様々な体験、価値観、生き方を知ることは、「働き方」の選択肢が増えることにつながり、自分の人生が豊かになるはず。

そんなステキな機会がこのプログラムには詰まっています。

NPOインターンシップとは？ 活動の実態を知らない大学生の皆さんが、現場に入り様々な課題に直面することで、どうしたらそれが解決できるのか、知識や経験に基づいて考え行動し、解決方法を身につけるために多くを学ぶ機会だと捉えると良いのではないのでしょうか。幅広い年齢層が活躍する現場の中では様々な価値観や考え方があり、そのような場面に数多く参加することでコミュニケーション能力が上がります。NPOという土台の上に立ち様々な事を受容し表現を通して学びのベクトルが上がっていくのではないかと思います。インターンシップでの活動を通して多種多様な人との繋がりを感じることから始めませんか！



NPO法人
ピッピ・親子サポートネット
堤 彰子 様



神奈川大学
経営学部
山岡 義卓 准教授

今年は短期と長期の両方の成果報告会を聞かせていただきました。短期はあれだけ大勢の若者が地域のNPOで活動を体験する機会を提供していることに意義があると感じます。NPOという言葉は知っていても実際の活動に触れる機会の少ない学生たちですから10日間とはいえおおいに刺激を受けてきたことが伝わってきました。

一方、長期は人数は少ないもののNPOの仕事の一部を担うことを通してより深くNPOを理解するとともに、自分自身を鍛え高める機会になっていると感じました。

これらの成果はいずれも受け入れていただいたNPOの皆様の丁寧なご指導あってのことです。改めて感謝とお礼を申し上げます。

大学でNPOインターンシップに参加する学生たちを見守ってきました。その経験から、学生たちが活動を通して社会の見方と関わり方を変えていくこと、社会の様々な課題を知るとともに、人と人とのつながり、社会課題の解決のための糸口、自分も含めて一人ひとりの力のできることに気付いて成長していくことを実感しています。変化する社会のなかで、自分がどのように生きていくのか。このインターンシップが、これからの社会と自分を考えるきっかけと力、つながりを与えてくれると確信しています。

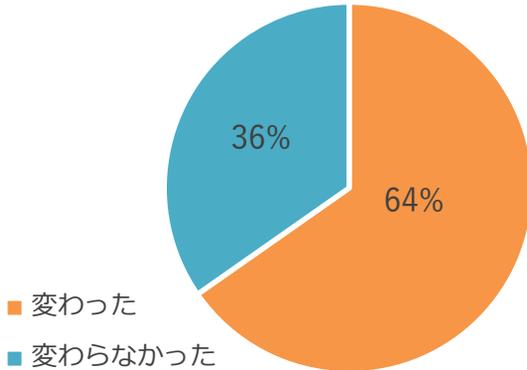


明治学院大学
心理学部
渋谷 恵 教授



インターン生のアンケートより

NPOに対するイメージの変化



「NPOは困っている人が利用するものだと思っていたが、誰にでも利用し得るし、参加できる場だと知った。」

「堅いイメージからアットホームで関わりやすいイメージに変わった。」

「専門知識のない大学生でも活躍できる場があるのだと知った」

「1団体だけで活動しているのかと思ったらいろんな組織やNPOと協力して活動していることがわかった。」

感想ランキング(複数回答可)

- 1位 いままでやったことのない経験ができた (18%)
- 2位 大学生活(特に夏休み)を有意義に過ごすことができた (10%)
- 3位 NPOや民間非営利組織への関心が高まった (9%)

生の声を一部紹介！

- NPOという名前を知っている人はたくさんいても、実際にどんな活動をしているのかは知らなかったなので、知る機会が出来て良かった。
- 10日間で1からイベントのアイデアを出し、打ち合わせ、ワークショップ、当日の進行など他ではできない体験をさせていただき、大変でしたが、楽しかったです。
- インターンシップへの参加が初めてだったので、始まる前はすごく緊張したが、団体のスタッフの皆さんがとても温かく迎えてくださったので、楽しみながら活動をすることができた。
- 子育ての現場でのインターンを経験したことで、自分の親への感謝が深まった。
- いろんなインターンシップ生と関わりができて、とてもいい機会になった。
- インターンシップ期間中でいろいろな方と出会い、お話しできたことで、積極性や話し方などが変わっていった。
- 自分だけでは横浜や周辺地域にこんなに多くのNPOがあり、こんなに多様な活動がなされていることを知れなかったのでありがたく思っています。
- 普段のNPOボランティアや活動ではできない学びがありよかったです。



発行月 2020年3月
発行元 NPO法人アクションポート横浜
編集 2019年度学生スタッフ 勝尾桃花
URL <http://actionport-yokohama.org>



アクションポート横浜

検索

このプログラムは多くの方にご協賛いただき、成り立っています。ご支援ありがとうございます。



ひとしずく株式会社



横浜中華街パーキング協同組合

